

## 第2章 集計の概要

## 1. 集計の対象

### (1) 罹患日の期間

2021年1月1日から2021年12月31日まで

### (2) 調査の期間

届出票受領期間：原則2022年1月1日から2022年12月31日まで

遡り調査期間：2024年11月1日から2025年1月14日まで

### (3) 集計日

2025年9月17日

### (4) 集計対象となるがん

第1章 3. 『届出対象となるがん』と同一である。

### (5) 精度指標(上皮内がんを除く)

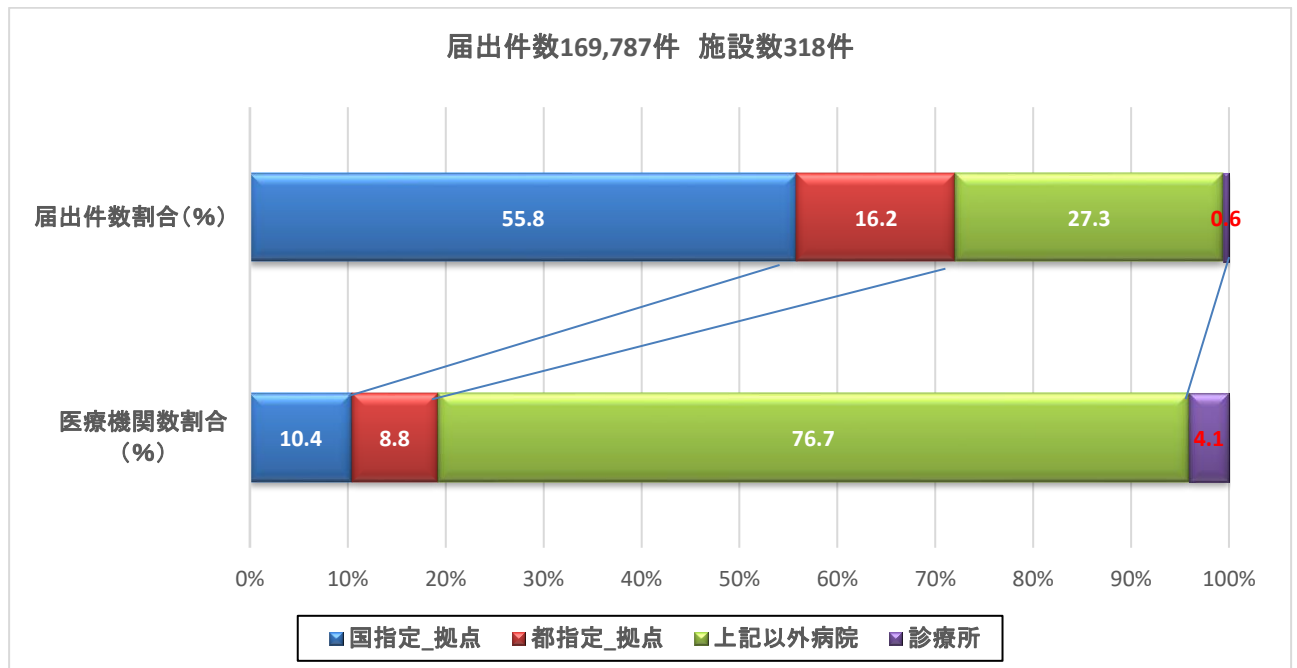
MI比：0.35 DCI割合：3.4% DCO割合：2.6% MV比：88.2% HV比：85.6%

## 2. データ収集状況

### (1) 届出票

受領期間の届出票数は、総計169,787件・施設数318であった（重複、対象外を含む。）

図2-1 届出票医療機関別件数



## (2) 死亡票

全国がん登録事業では、死亡票は法定業務として国が一括して取り扱う。

## (3) 遡り調査票

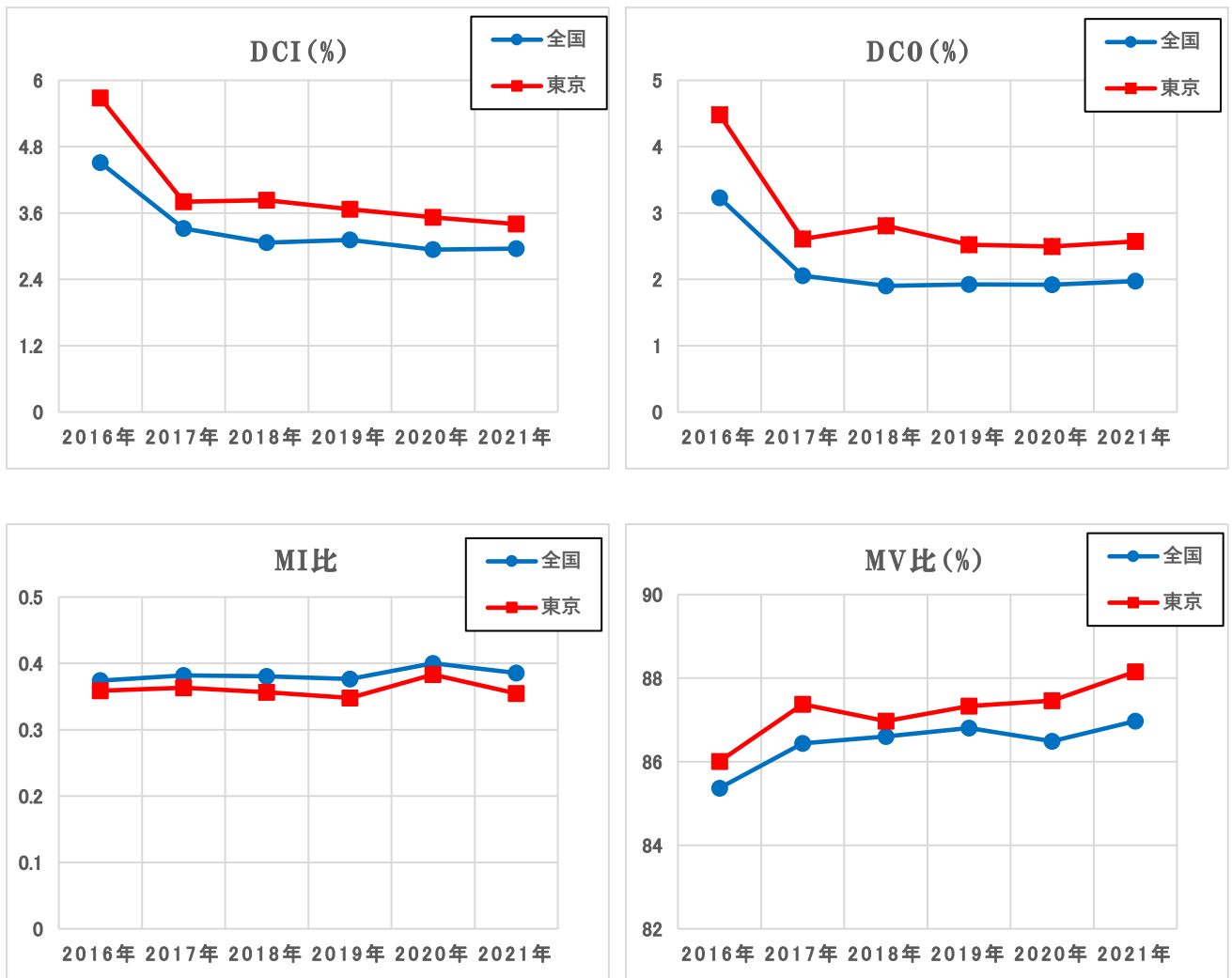
2021年(死亡)遡り調査対象症例は、2,242件（432病院）であった。遡り調査に対する回答は1,817件（全遡り調査に対する回答率81.0%）、318病院（同73.6%）であった。

## (4) がん登録の精度

### ①がん登録精度指標の改善状況

東京都におけるがん登録の精度指標は、ほぼ全国レベルと歩調を合わせる形で推移している（図2-2）。

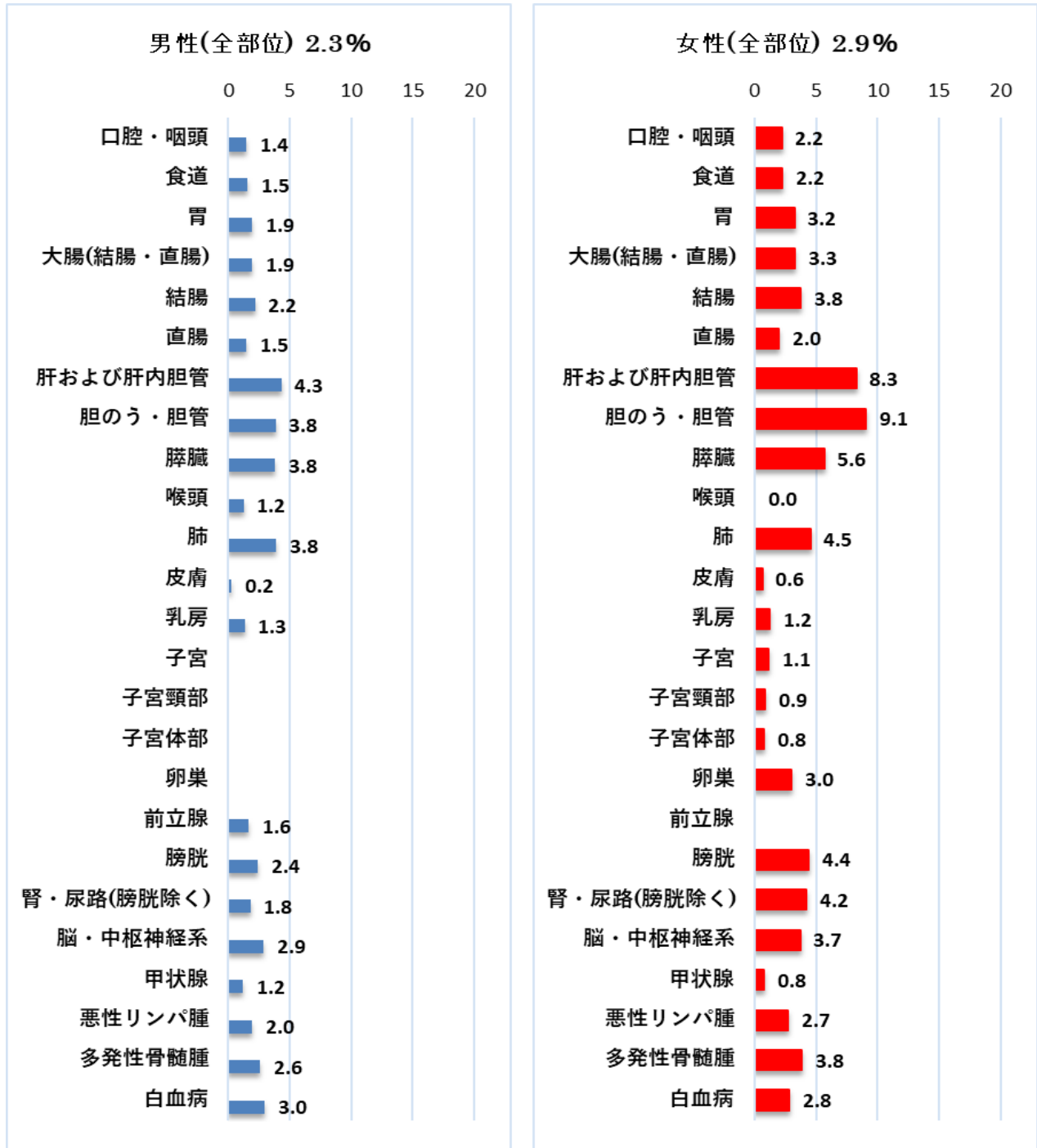
図2-2 がん登録の精度指標の推移(診断年2016から2021)



②部位別・性別DCOの違い（表3-8-A）

DCOが低いのは、男性では皮膚、女性では喉頭、皮膚である。逆にDCOが高いのは、男性では、肝および肝内胆管、女性では胆のう・胆管、肝および肝内胆管である。（図2-3）。

図2-3 2021年部位別・性別DCO（上皮内がんを除く）単位%

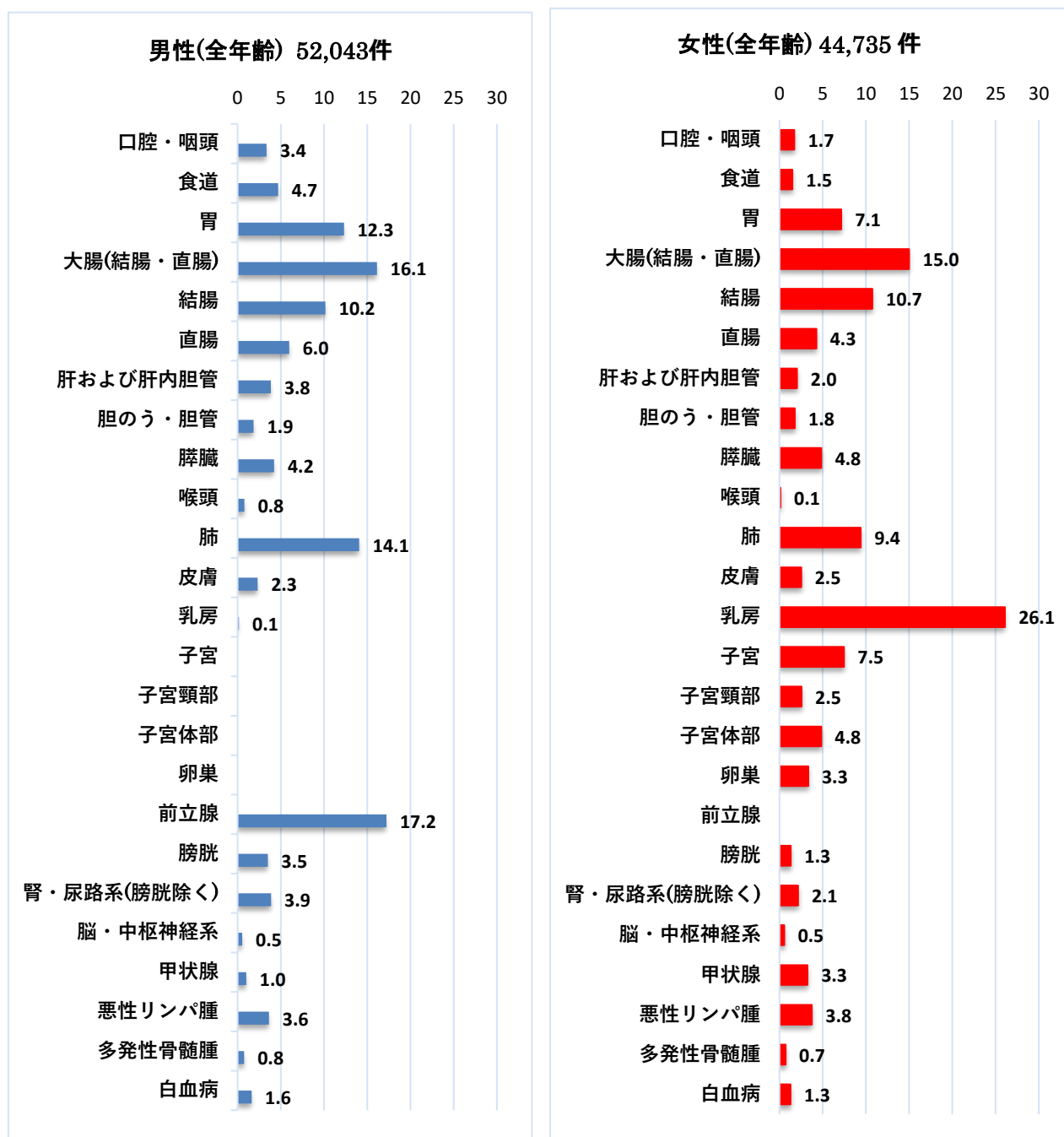


### 3. がん罹患の概要

#### (1) 部位別・性別罹患数（表3-1-A/B）

届出票と死亡票の情報を集約したがん罹患数は、上皮内がんを除いた場合男性52,043件、女性44,735件で、男女計で96,778件であった。上皮内がんを含めた場合、男性57,260件、女性52,326件で男女計109,586件であった。上皮内がんを除いた男性の最も多い罹患部位は、前立腺（17.2%）大腸（16.1%）であり、肺（14.1%）と続く。女性の最も多い罹患部位は、乳房（26.1%）であり、次いで、大腸（15.0%）、肺（9.4%）と続く（図2-4）。

図2-4 2021年部位別・性別罹患件数の割合（上皮内がんを除く）単位%



## (2) 年齢別がん罹患（表 3-2-A/B、3-3-A/B）

上皮内がんを除く年齢別罹患数の内訳は、65歳以上が男性76.7%、女性62.3%を占めている。一方、40～64歳は、男性が21.3%であるのに対して、女性は33.0%となっている（図2-5）。

上皮内がんを除く性別罹患数の内訳は、男性は女性より7,308件多いが、生産年齢人口の対象となる15～64歳に限ると女性は男性よりで4,778件多い。

年齢階級別罹患率を見ると、男女とも年齢とともに罹患率は上昇するが、特に50歳を超えると上昇する。（図2-7）。また、15～64歳において女性の罹患数が高い要因は、この時期に女性の乳房と子宮に発生するがんが多いためである（図2-7-3）。

図 2-5 2021 年がん罹患年齢群別内訳(上皮内がんを除く)

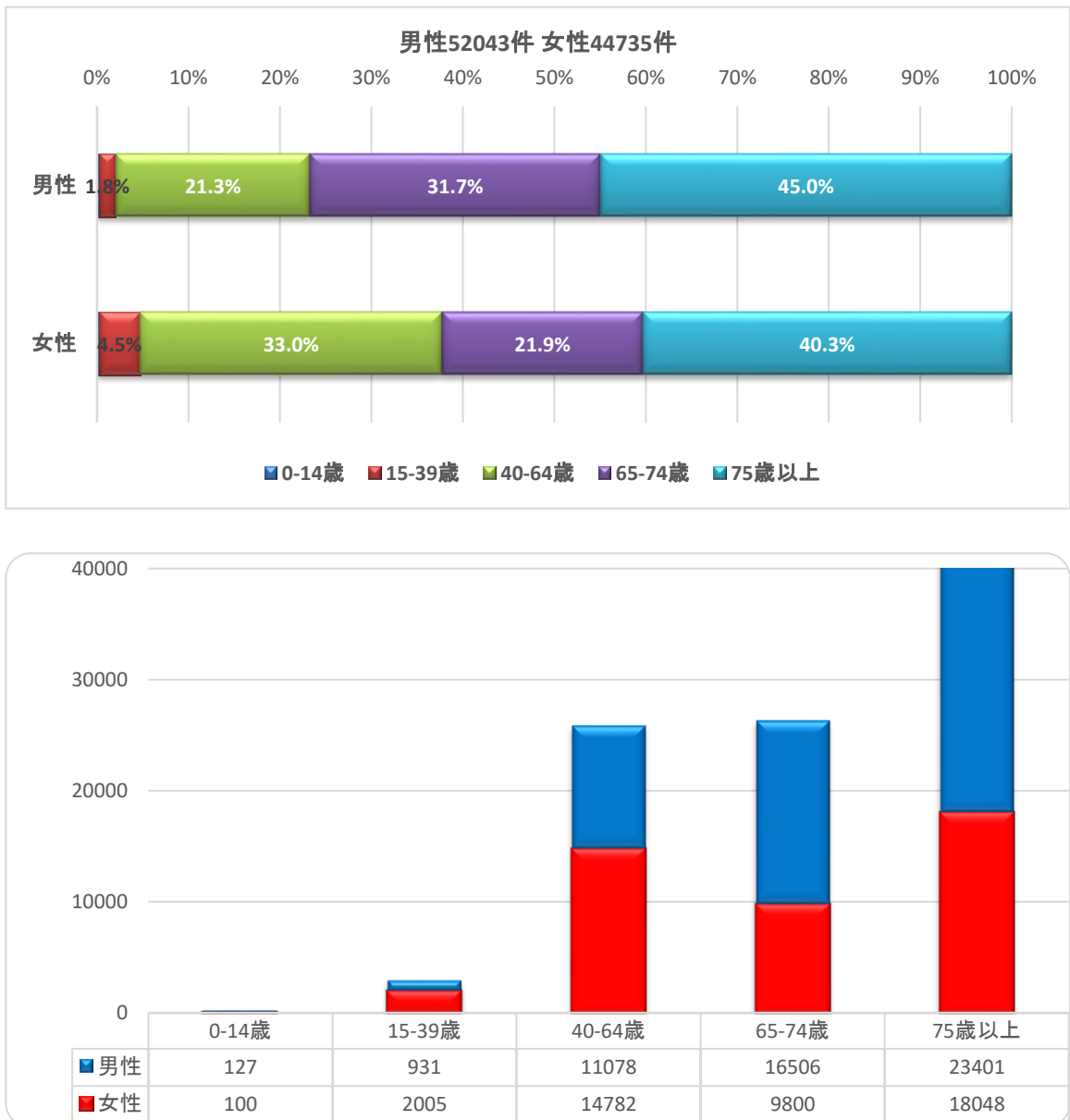


図2-6-1 2021年がん罹患年齢群別部位別内訳（%）上皮内がんを除く

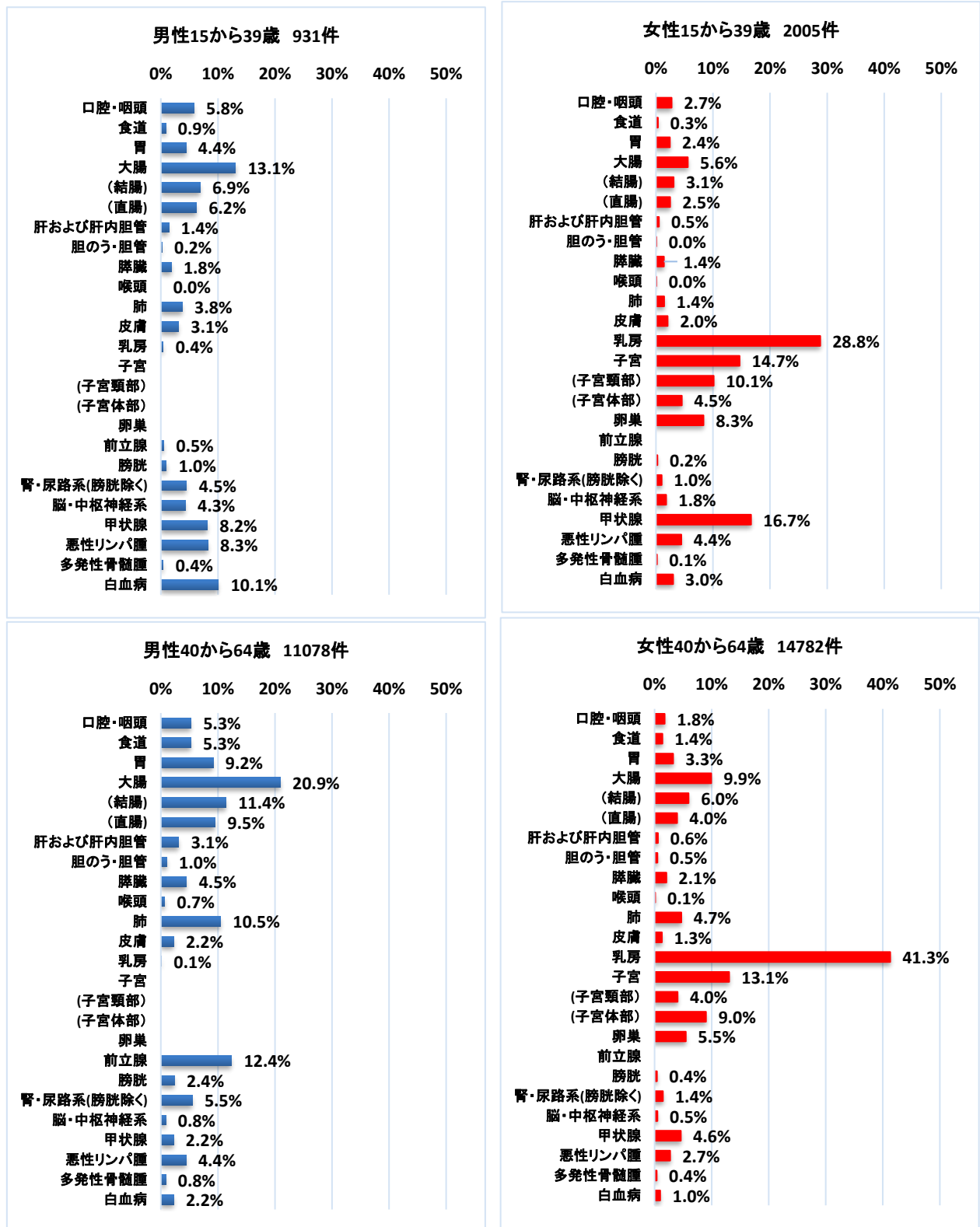


図2-6-2 2021年がん罹患年齢群別部位別内訳（%）上皮内がんを除く

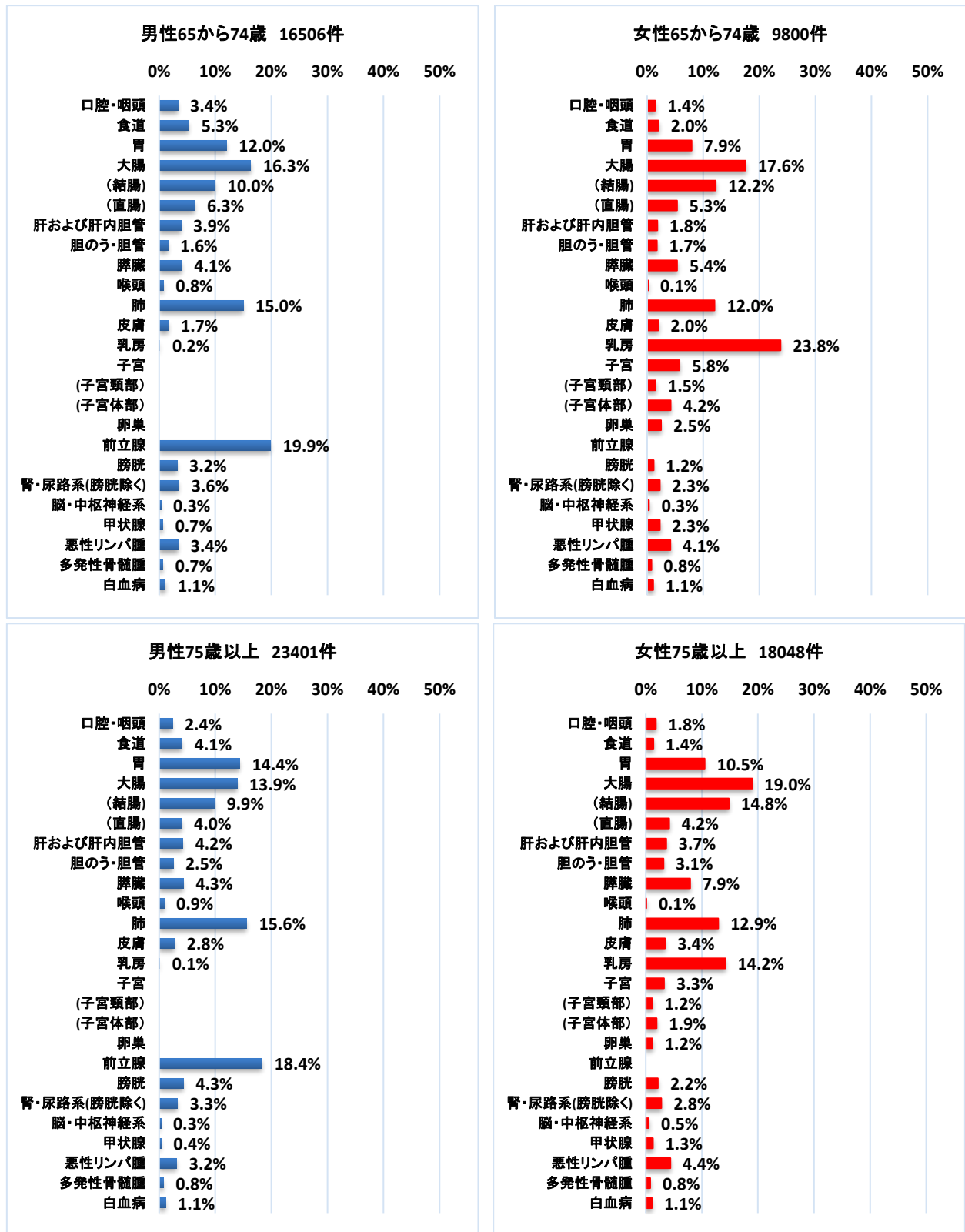
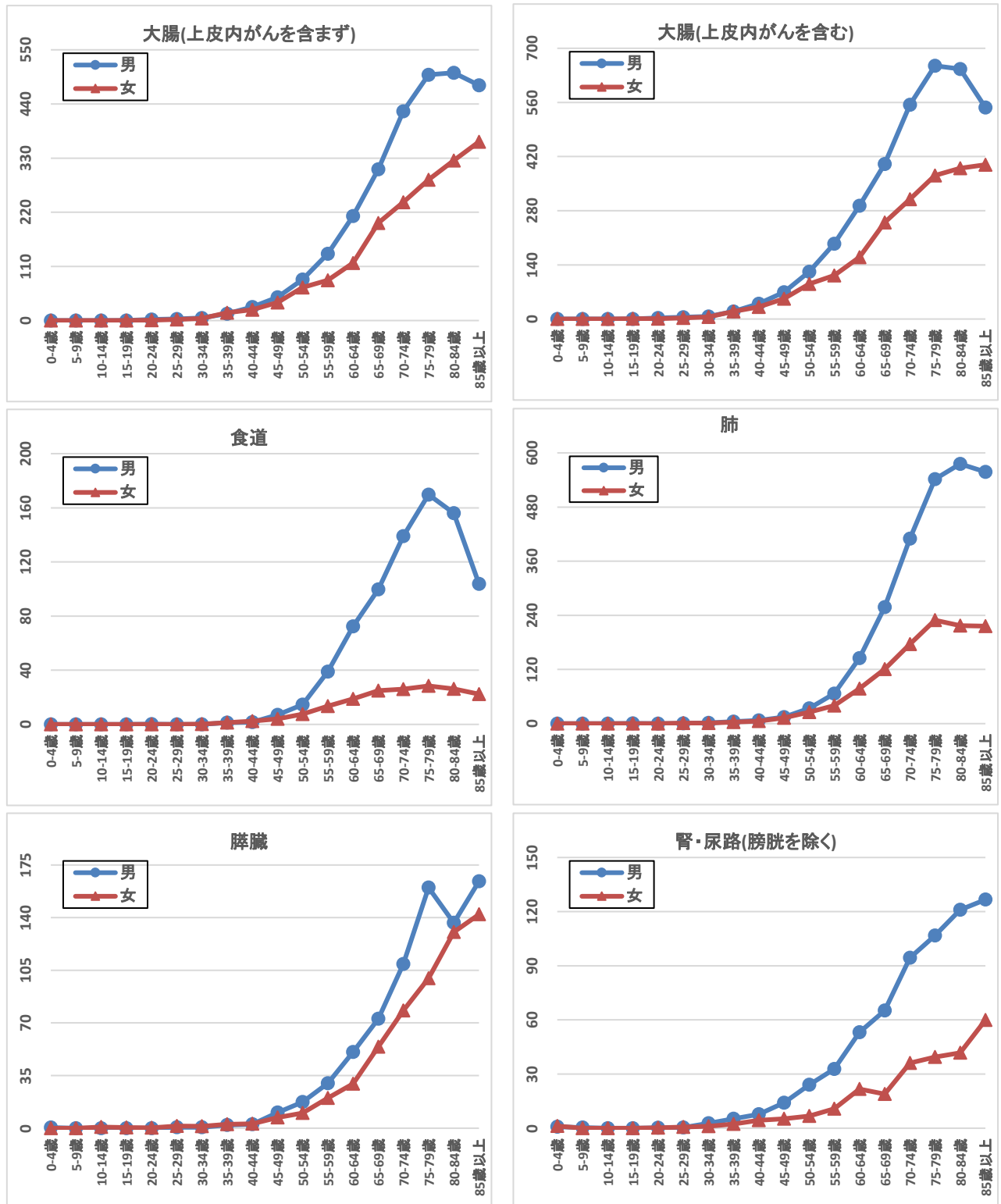




図2-7-2 2021年部位別年齢階級罹患率：人口10万対

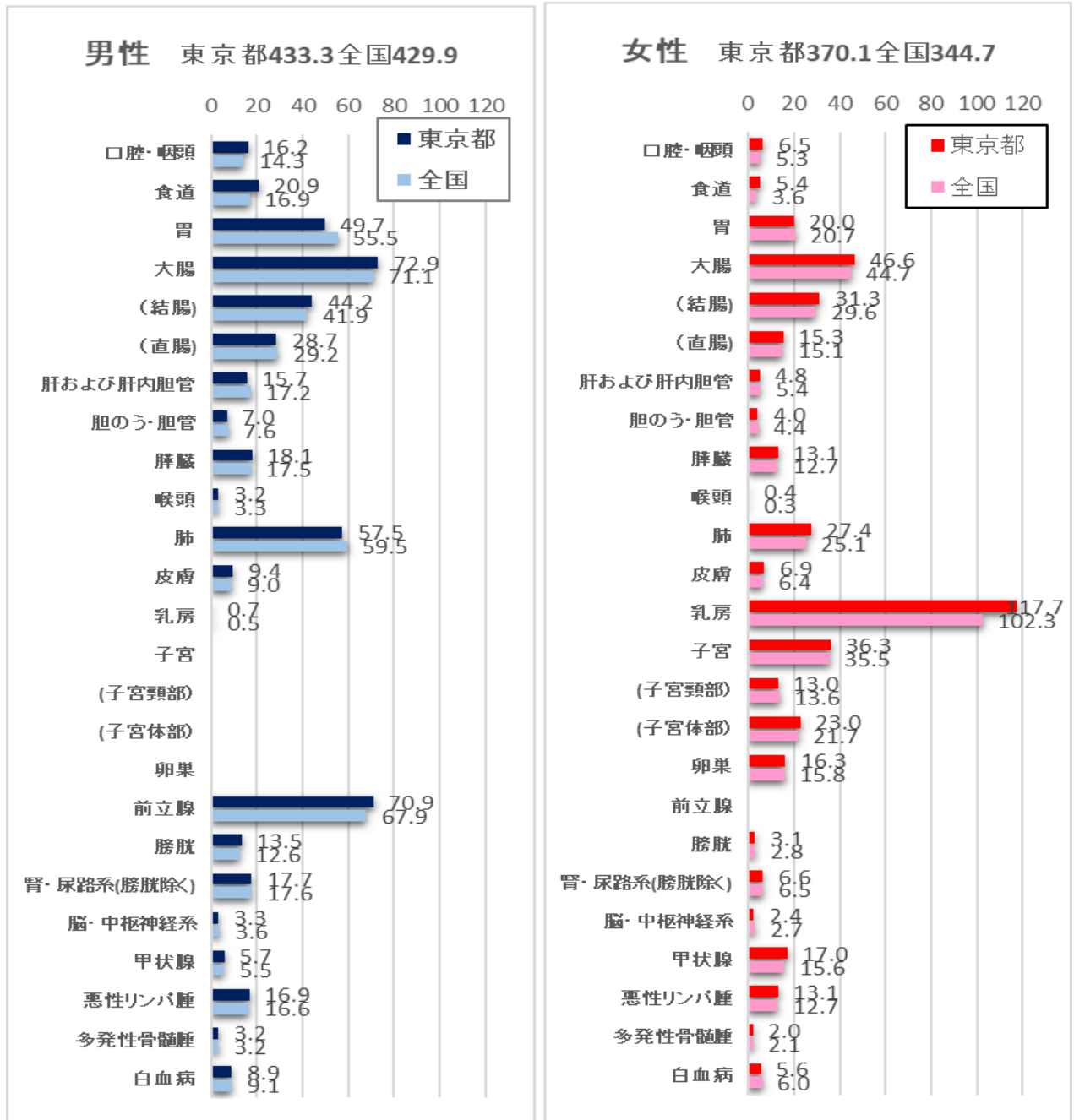




(3) 年齢調整罹患率（2021年）（表3-1-A）

東京都の全部位の人口10万人当たり年齢調整罹患率（上皮内がんを除く、昭和60年日本人口モデルに基づく）は、男性433.3、女性370.1である。全国での値は、男性429.9、女性344.7で、男女ともに東京都の方が高い。部位別では、女性は全国と比して概ね同様に高い傾向があるが、男性では、食道が全国より高く、女性では乳房は全国より高い（図2-8）。

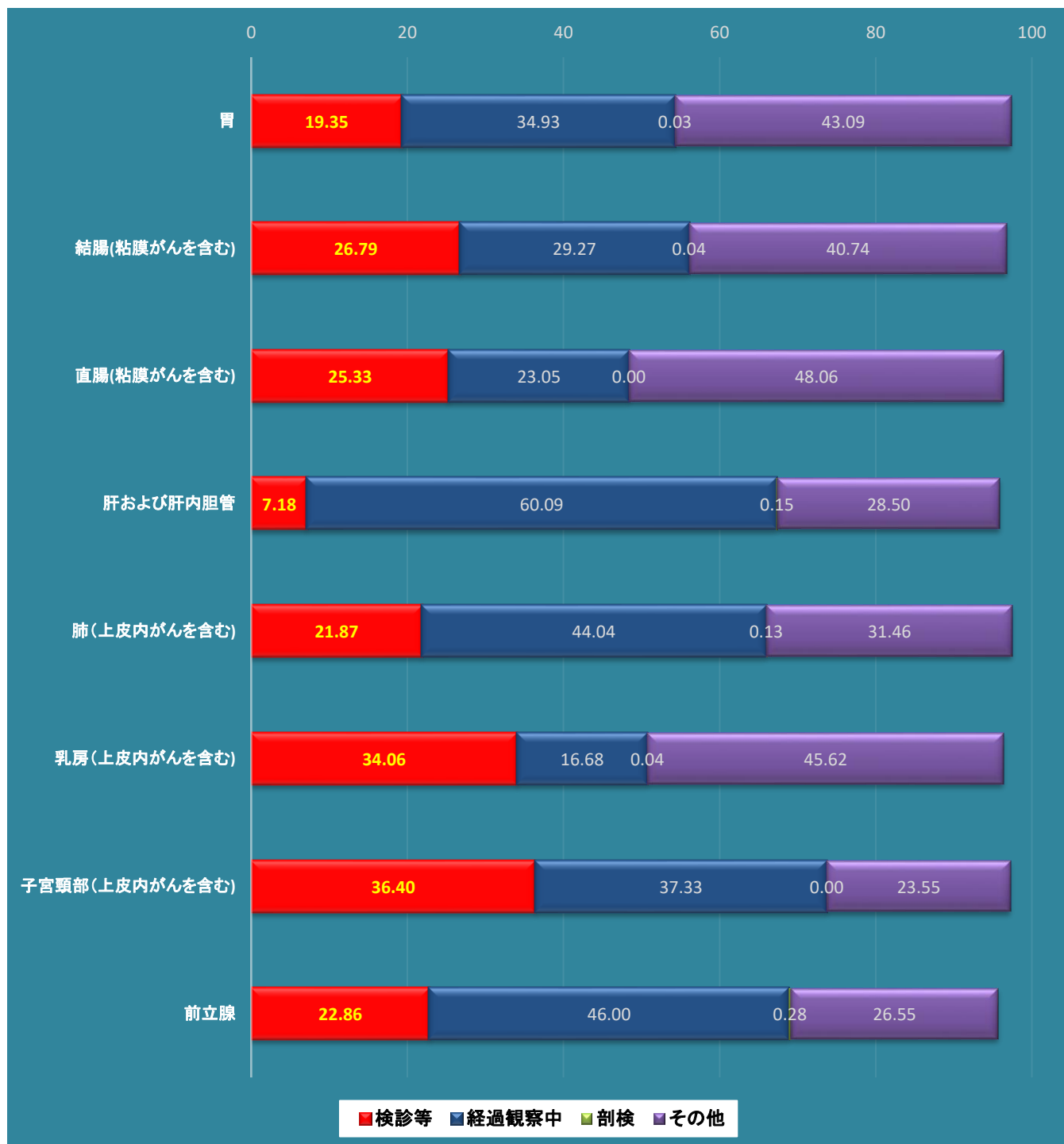
図2-8 2021年部位別がん年齢調整罹患率：人口10万対（全国推計値との比較）



#### (4) 発見経緯（表3-4-A/B）

子宮頸部や乳房は、検診等（がん検診、健康診断、人間ドック等）において、肝および肝内胆管や前立腺、肺は他疾患経過観察中に発見される割合が高い（図2-9）。

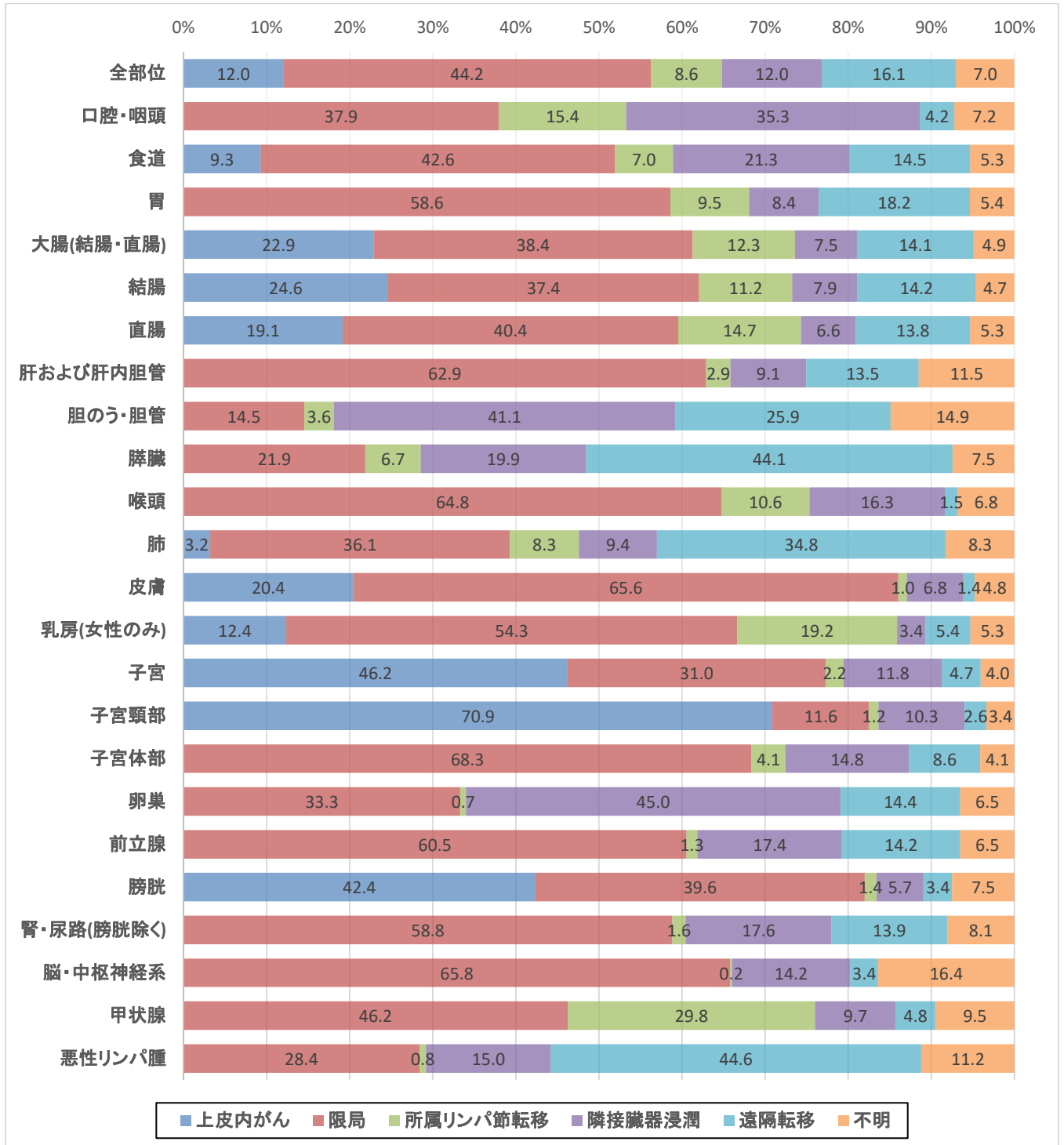
図2-9 2021年部位別発見経緯割合（%）（DCO症例を除く）



(5) 病期 (表3-5-1-A/B)

全部位を含めた各部位の病期の割合を、下記の表に現す。(図2-10)

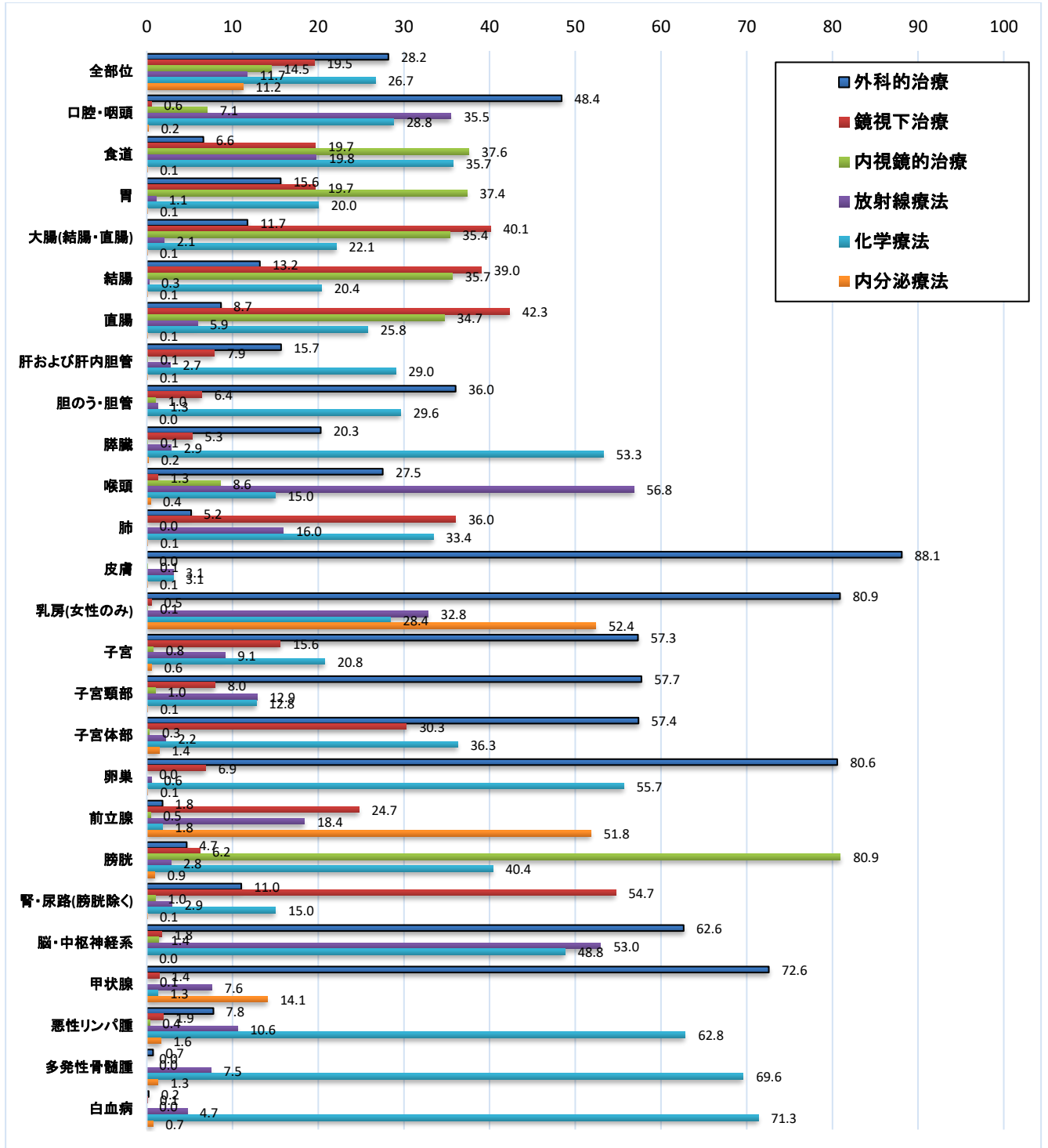
図2-10 2021年部位別発見時病期割合 (%) (DCO症例を除く)



(6) 初回治療内容（表3-6-A/B）

造血器腫瘍（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病）以外で薬物治療（化学療法＋内分泌療法）の割合が高いのは、乳房、卵巣、前立腺である。放射線治療の割合が高いのは、喉頭、脳・中枢神経系である（図2-11）。

図2-11 2021年初回治療内容（上皮内がんを含む）（%）（DCO症例を除く）



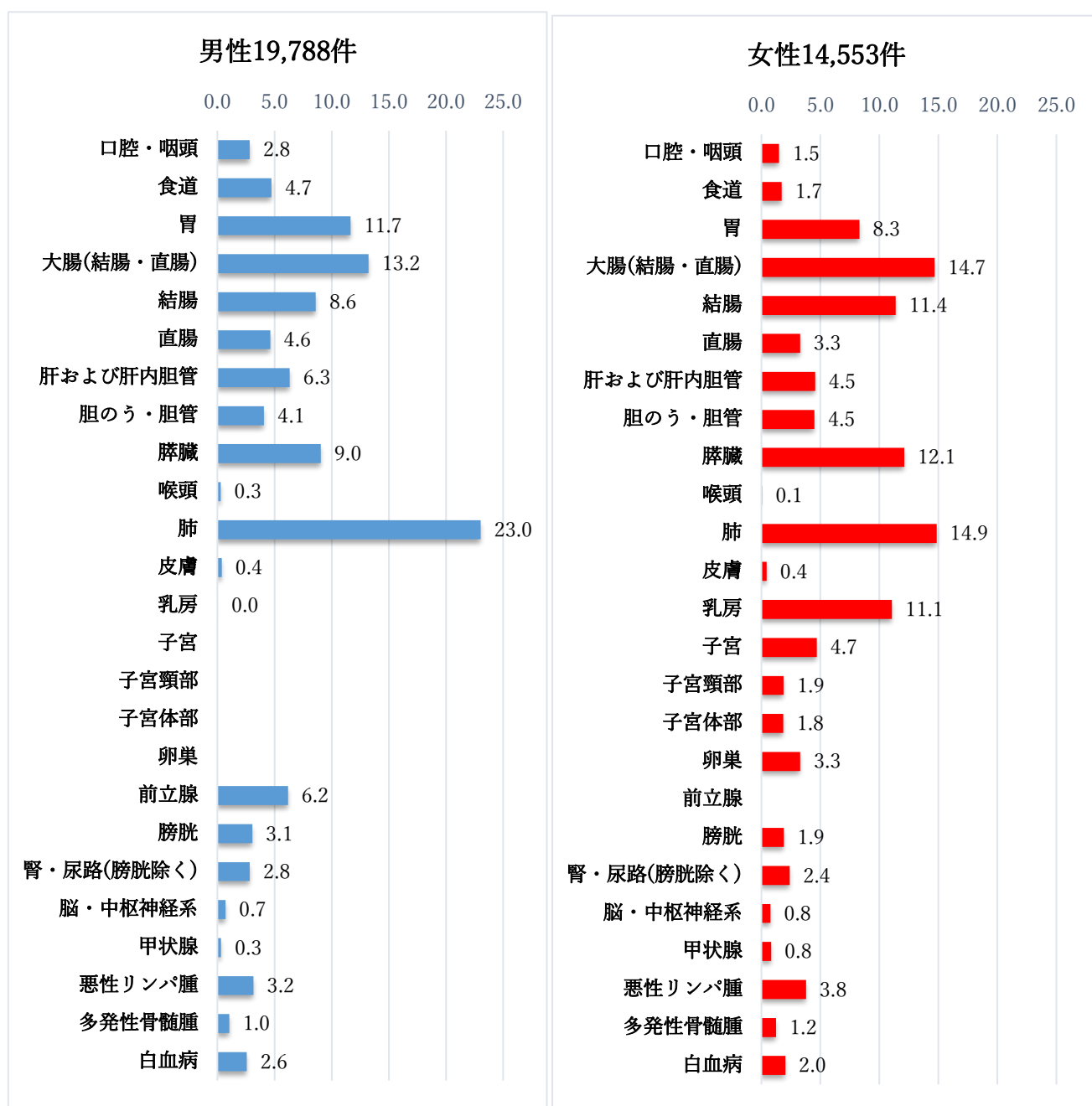
#### 4. がん死亡の概要

##### (1) 部位別・性別がん死亡数（表3-9）

東京都において、2021年にがんによって死亡した者の数は、男性19,788名、女性14,553名、男女計34,341名である。

がん死亡数を部位別に見た場合、男性は、肺、大腸、胃の順に多く、女性は、肺、大腸、膵臓の順に多い（図2-12）。

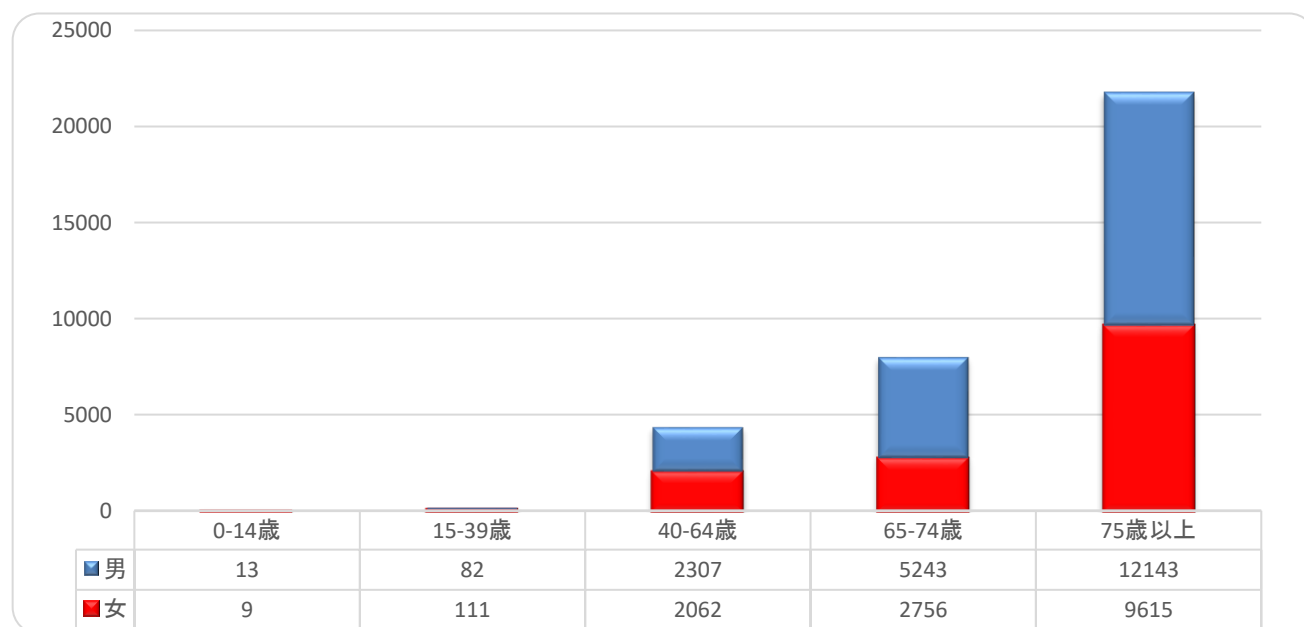
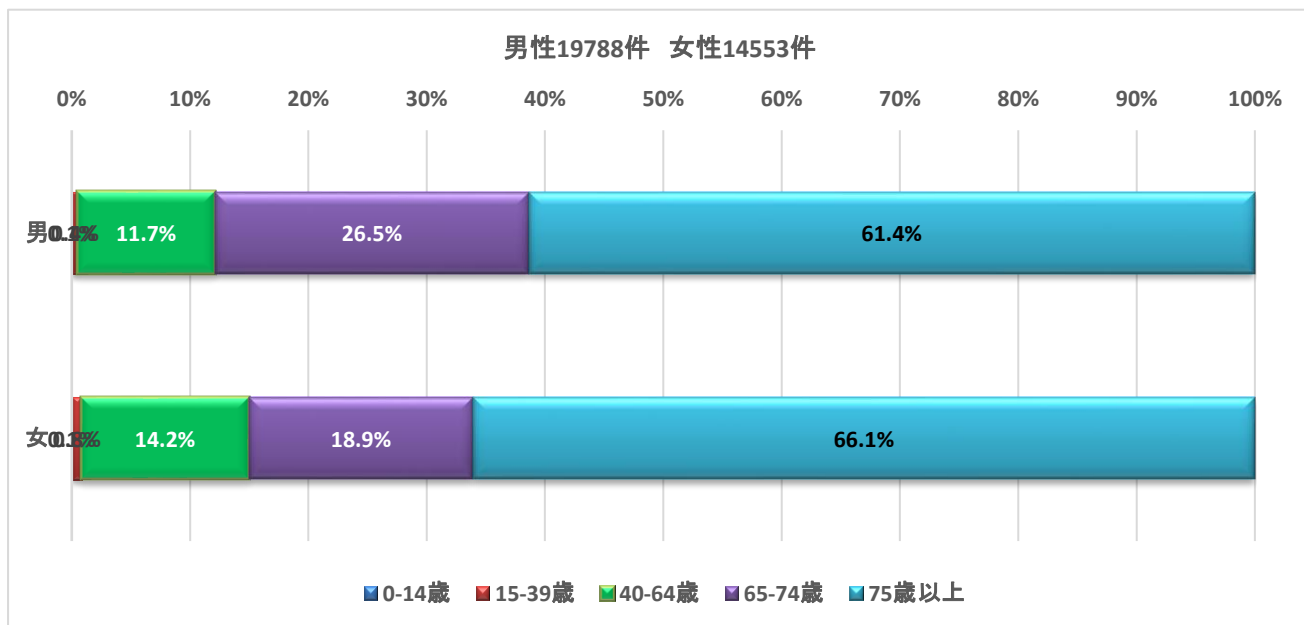
図2-12 2021年部位別・性別がん死亡件数・割合（％）



## (2) 年齢別がん死亡（表3-10/11）

2021年死亡者数は、男性19,788名、女性14,553名で、男性の方が5235名多い。がん死亡の年齢別内訳を見ると、65歳以上の死亡が男性87.9%、女性85.0%である。一方、40～64歳は、男性11.7%、女性14.2%である。（図2-13）。

図2-13 2021年がん死亡年齢群別内訳



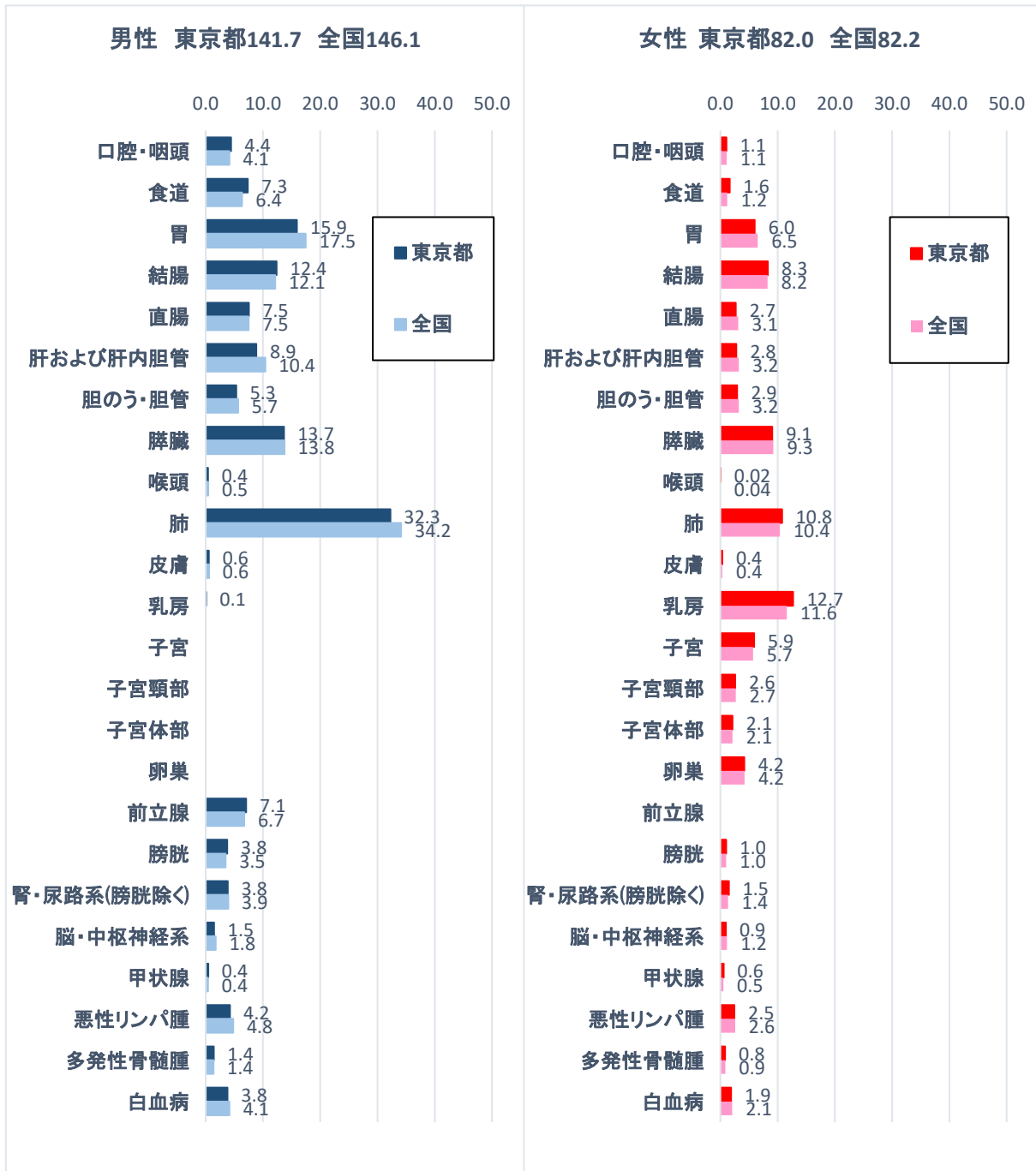




### (3) 年齢調整死亡率（表3-9）

東京都のがん罹患者に関する年齢調整死亡率は、人口10万人当たり、男性141.7、女性82.0である。全国推計値は、男性146.1、女性82.2である。部位別では、男女ともに全国と比して概ね同様の傾向を示している。（図2-15）。

図2-15 2021年部位別年齢調整死亡率：人口10万対（全国推計値との比較）



## 5. 区市町村別標準化罹患比(付表3-6)

全部位、胃、大腸、肺、肝および肝内胆管、乳房、前立腺について、区市町村別標準化罹患比(上皮内がんを除く)を統計地図として示す。人口の少ない地域や頻度の低い部位については、わずかな件数の違いで大きく変動することがある。そのため主要ながんに絞り、また島嶼部を除いた。

図2-16-1 2021年 全部位 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

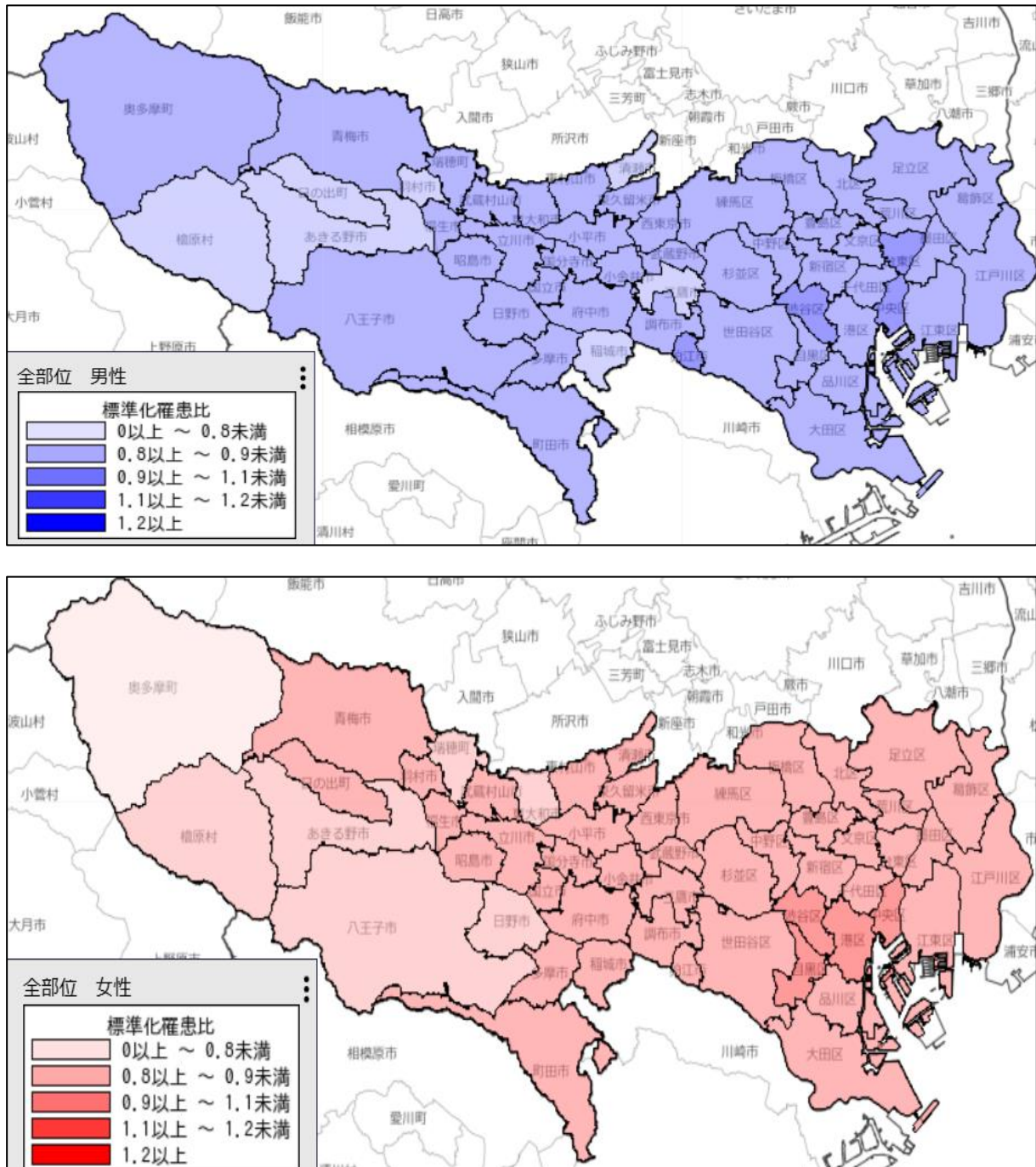


図 2-16-2 2021 年 胃 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

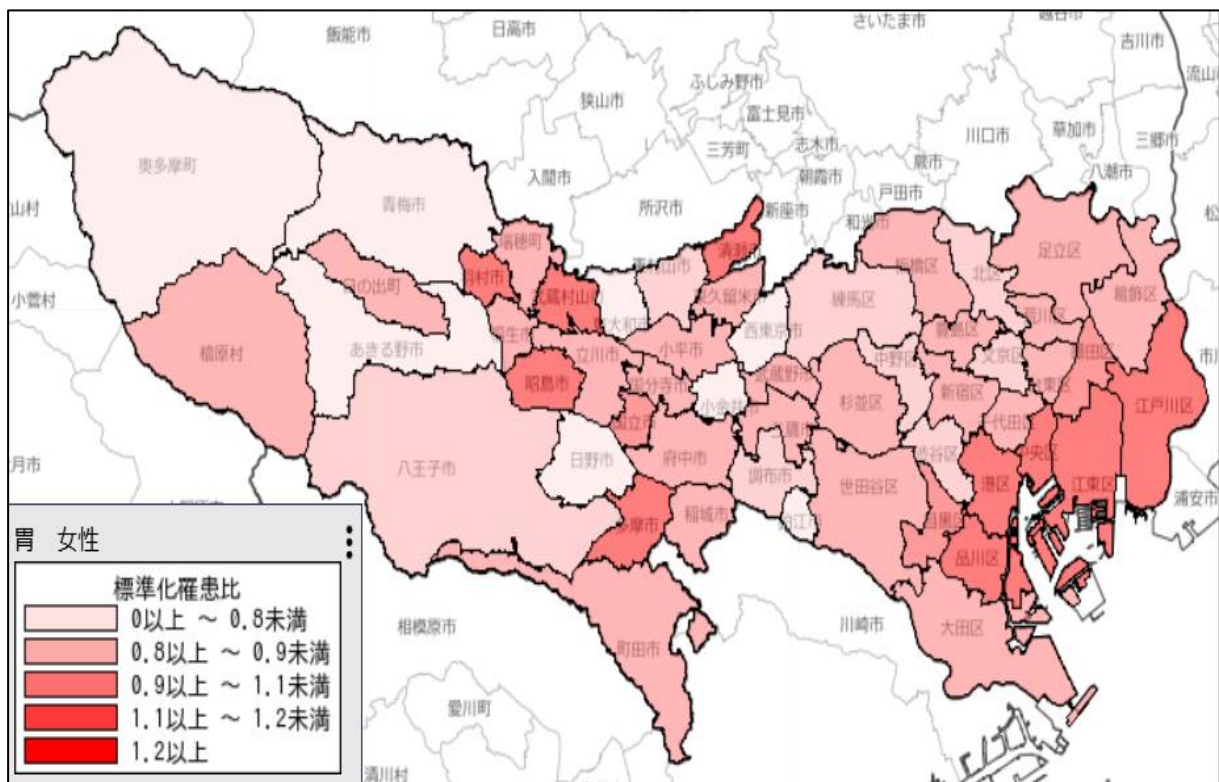
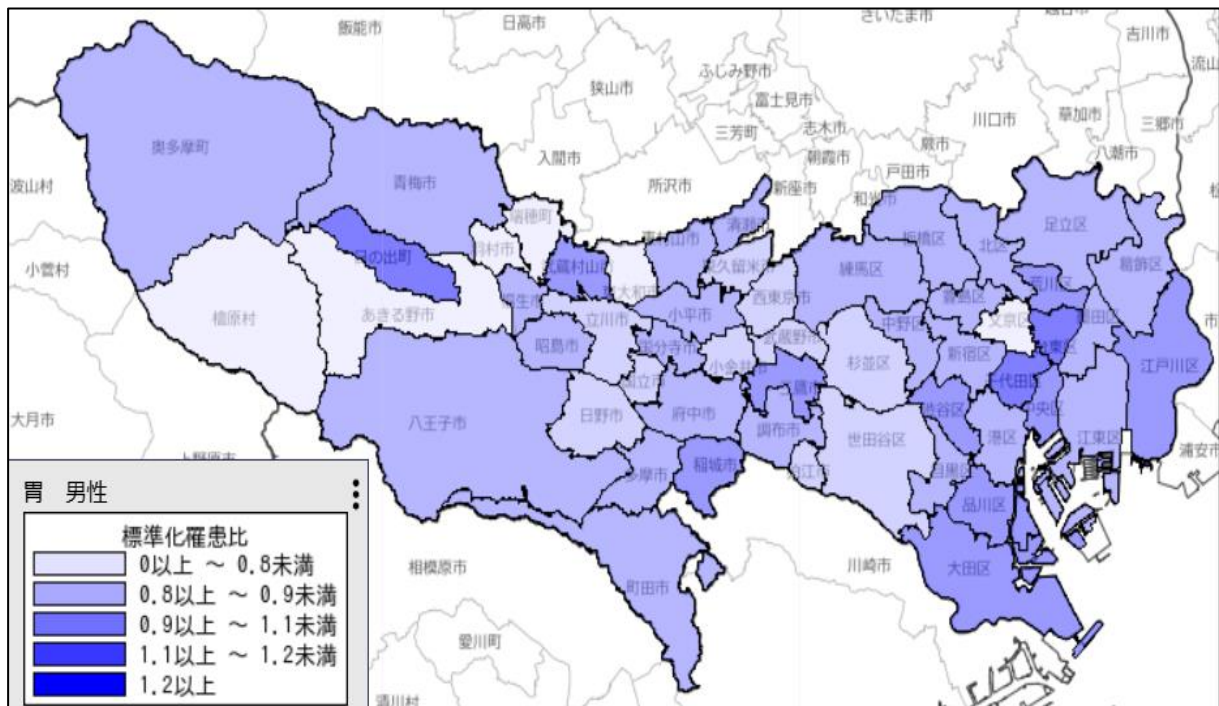


図 2-16-3 2021 年 大腸 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

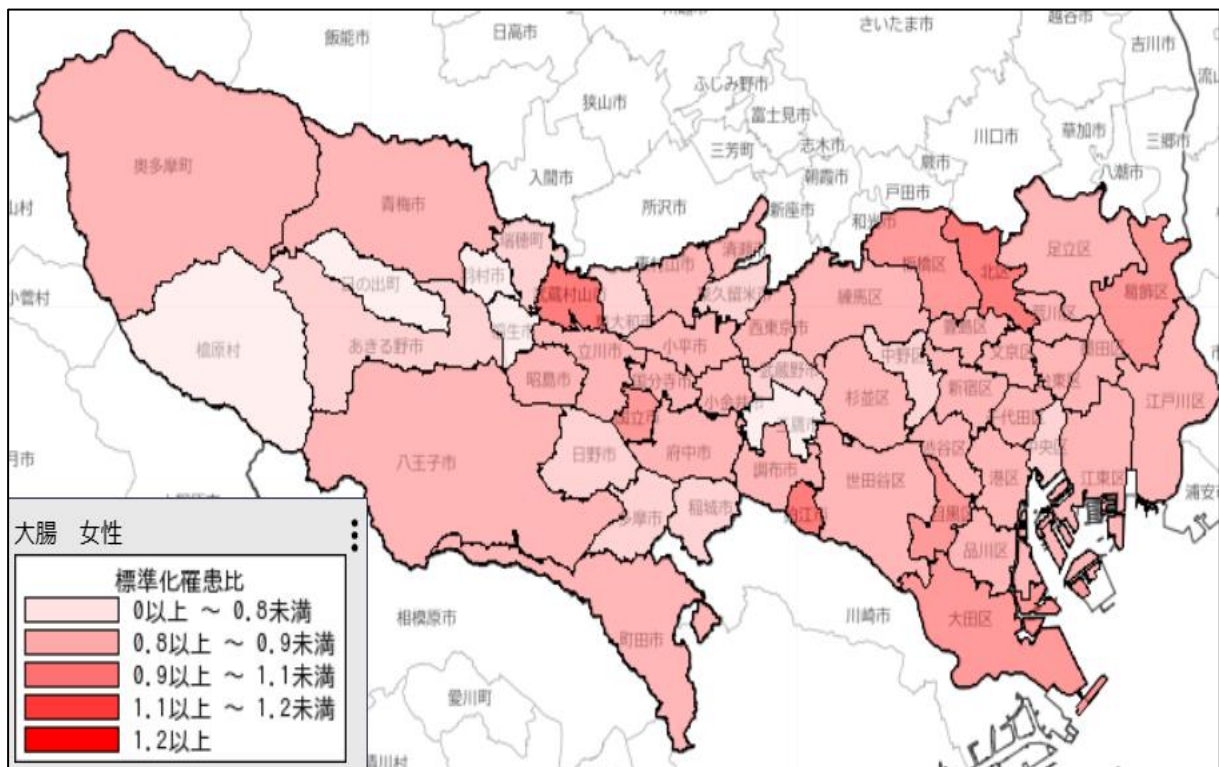
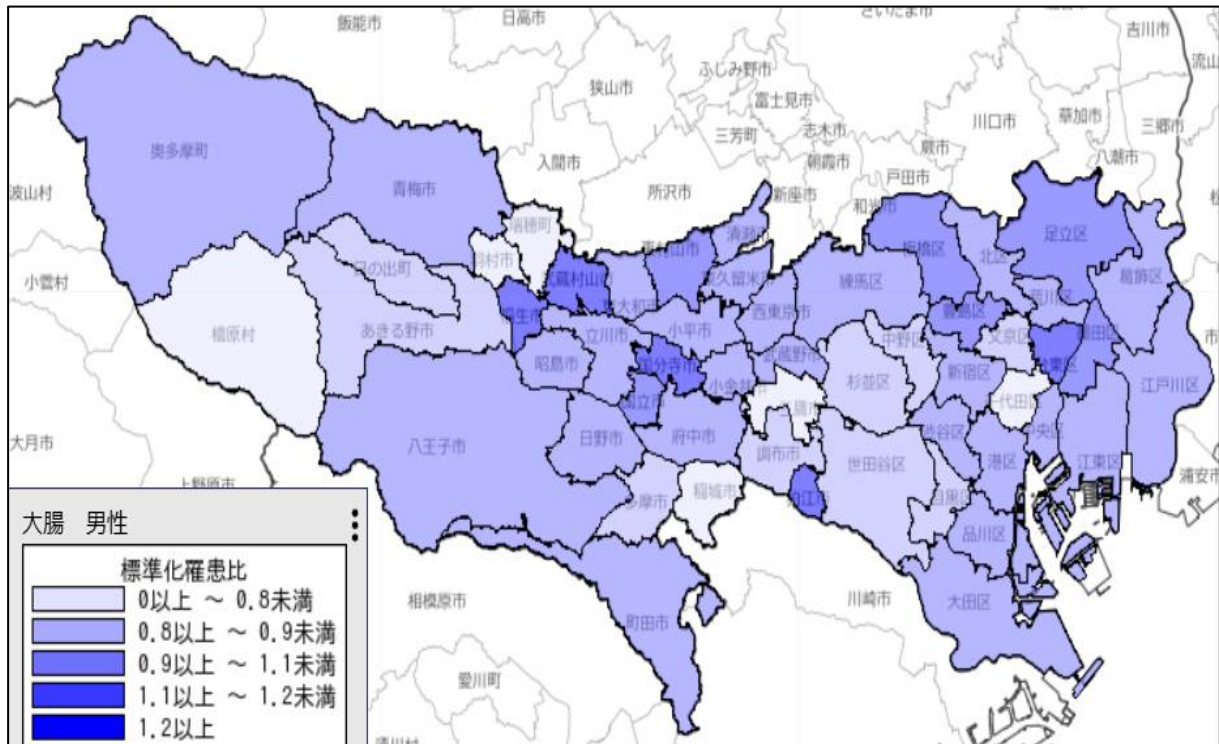


図 2-16-3 2021 年 肺 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

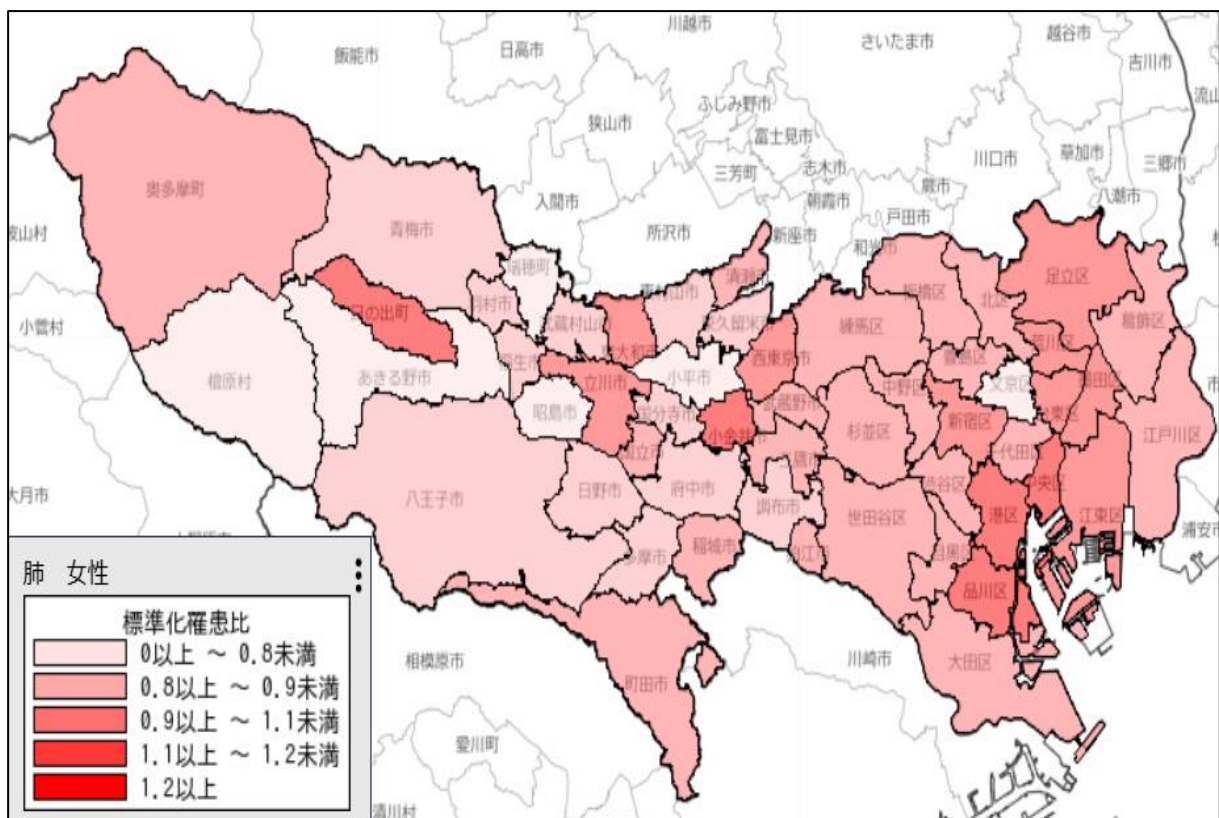
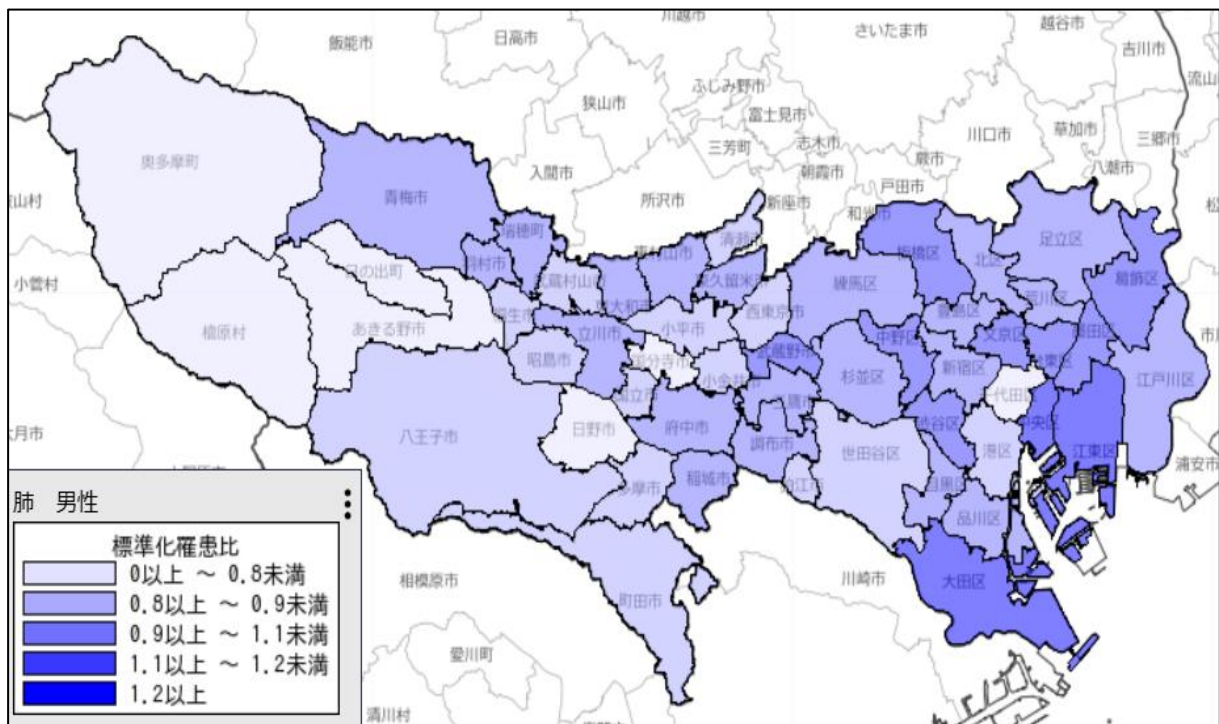


図 2-16-4 2021 年 肝および肝内胆管 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

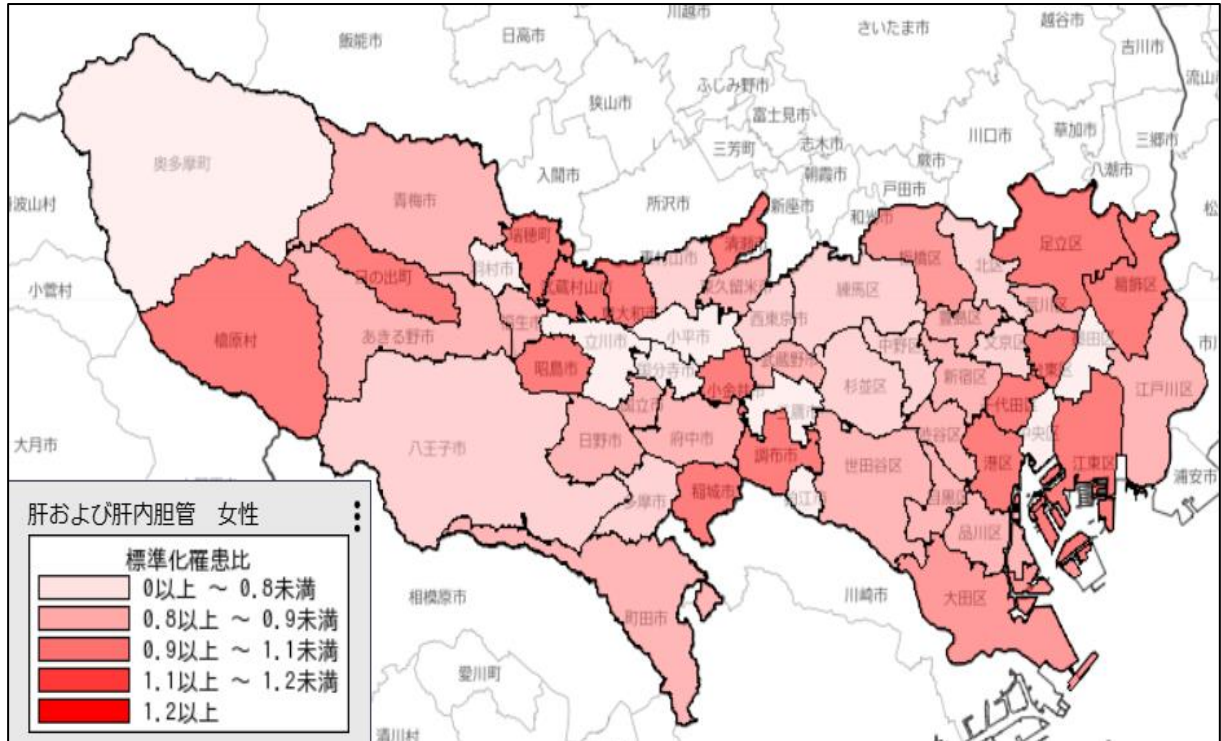
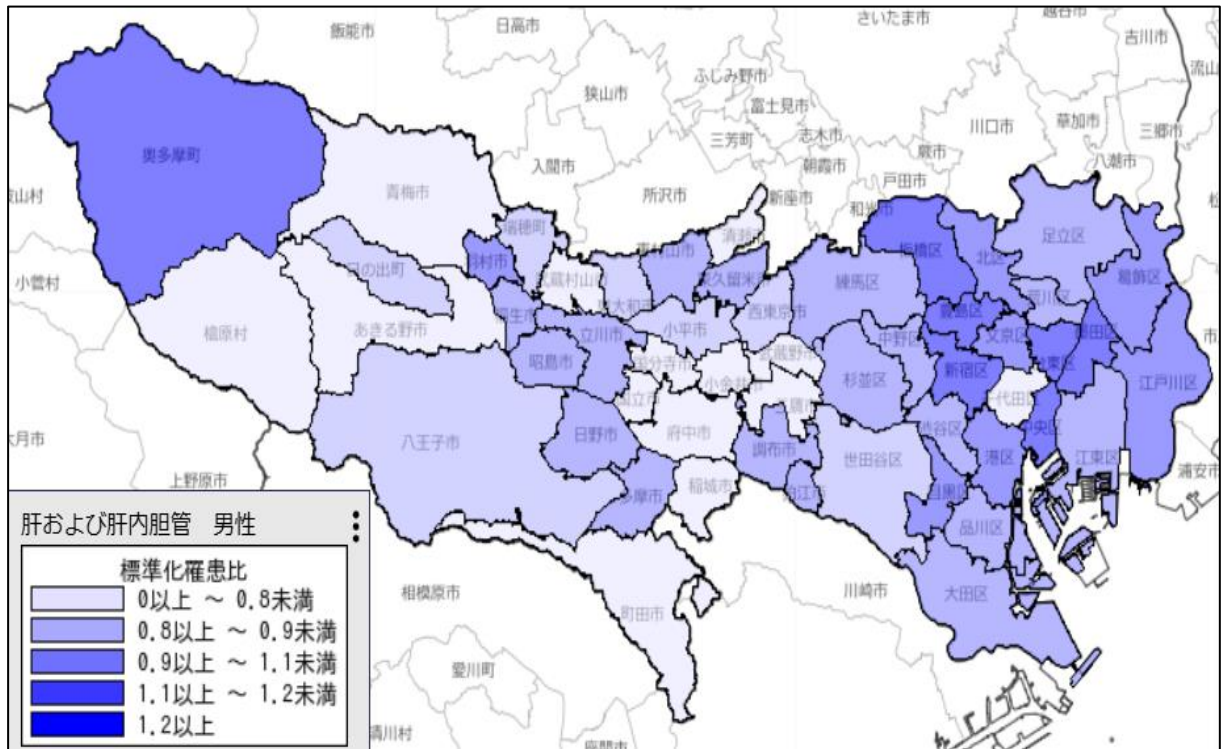


図 2-16-5 2021 年 乳房 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

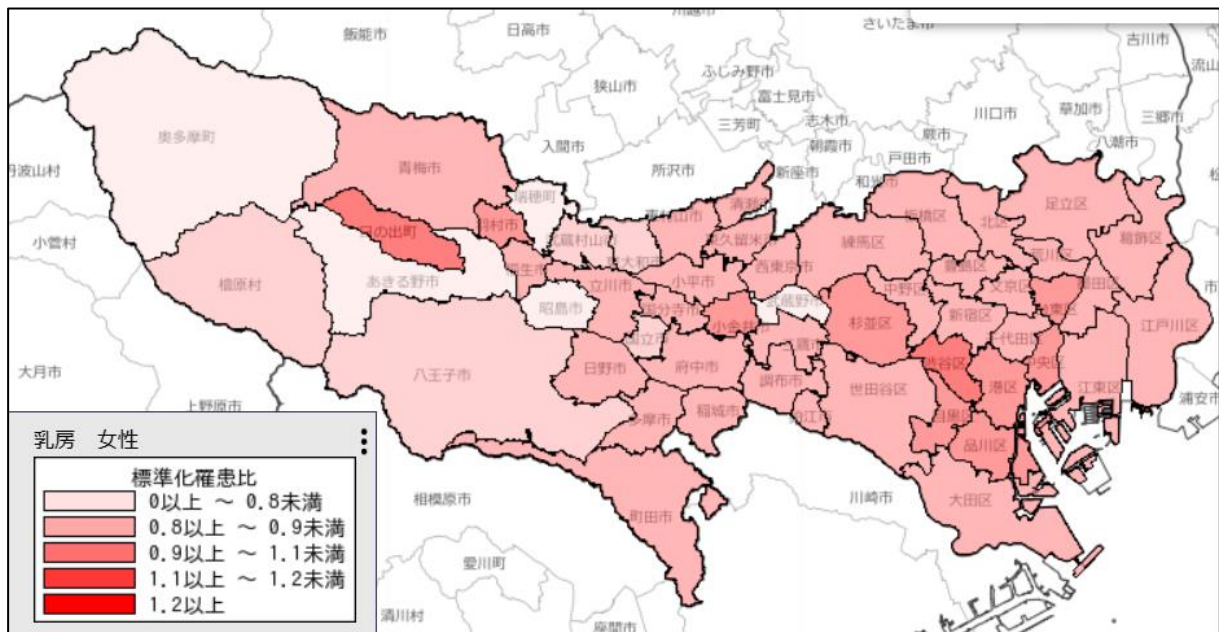


図 2-16-6 2021 年 前立腺 標準化罹患比(上皮内がんを除く)

